

産総研関西センターからの地質情報展出展報告

村井 健介¹⁾・藤井 奈美¹⁾

今回の地質情報展は京都府での開催となったため、関西センターもGSJや日本地質学会とともに主催者側として参加させていただきました。パネル展示については、関西センターの技術分野や連携企業に関する内容を中心に考え、2023年3月に岩手県で開催された「地質情報展 2023 いわて一明日につなぐ大地の知恵」も参考にしました。まず「大阪工業技術研究所八十年史」等の資料および歴史に詳しい職員から情報を集めて「関西センターの歴史(前編・後編)」を作成することにしました。さらに、現在、関西センターが研究を進めている技術分野(電池、材料、医療・健康基盤、情報)を紹介するために「関西センターの成果と技術分野」に関するパネルも作成しました。

また、関西センターでは直接的に地質に関する研究は現在行っていませんが、株式会社リガクと行っていた共同研究にてGSJが提供している標準試料をよく使用していたことを思い出しました。この共同研究では、従来の鉱物中の元素分析における鉱物効果を低減するために蛍光X線分析の精度を向上させることを目的として、従来のガラスビード法に代わってレーザー加熱法を開発しました。標準資料は蛍光X線分析の検量線を引くために使用しており、同社との共同研究内容を「岩石や鉱物のX線分析方法」を通じて紹介しました。関西センターでは電池や材料研究においてもX線技術がよく利用されていることから「地質や材料とX線技術」の展示パネルも作成し、X線の発生原理や分析

技術についてわかりやすく説明しました。

当日は展示パネルについて、小さなお子さまや学生の方、ご年長の方、日本地質学会関係者の方など多様な来場者に興味を持っていただきました(第1図)。特にX線分析技術に関する内容についての質問が多く、学生の方からは「友達に誘われて来たが、これまで知らなかったX線に関する勉強もできて面白かった」との感想もありました。また、展示パネルの作成にご協力いただいた株式会社リガクの担当者も来場され、「自然や地震といった身近な題材のため、誰でも楽しめると感じた。また、学会の参加者や高校生の方と話すことができ、自社開発している地質の分析法や小惑星リュウグウ試料の分析についてアピールするためのヒントにもなった」というコメントをいただきました(株式会社リガクは、小惑星リュウグウ試料に含まれることが想定される元素について波長分散型蛍光X線分析装置 ZSX Primus IV により含有率の決定に貢献しています)。

出展者である私たちをはじめとして、地質に関心のある関西センターの職員も来場し地質関連の研究成果に触れることができ、非常に多くの学びに繋がりました。

今回の地質情報展で使用した近畿地方の床貼り地質図は関西センターに持ち帰り、展示エリアに設置しています(第2図)。関西センターにお越しの際には、ぜひ常設展示エリアにお立ち寄りください。



第1図 展示パネルの説明の様子



第2図 関西センター展示スペース内に移設した地質情報展の床貼り地質図

1) 産総研 関西センター産学官連携推進室

キーワード：地質情報展、X線技術、蛍光X線分析、鉱物効果、リュウグウ

MURAI Kensuke and FUJII Nami (2024) Exhibition Report from AIST Kansai.

(受付：2023年12月1日)